

動物看護師養成モデルコアカリキュラム（専修学校）

* 第一版 *

一般社団法人 全国動物教育協会

動物看護職養成高位平準化対応連絡協議会

動物看護師統一認定機構 （推奨）

はじめに

動物看護師が動物医療の一角を担う専門職と認識され平成21年4月に一般社団法人日本動物看護職協会が設立された。今後、動物看護師は動物看護者としての倫理綱領に基づき、より専門性を高めた知識と技術が必要になる。そして、『あらゆる動物との絆を通じ、動物の健康保持と増進、予防と動物医療補助に努め、公衆衛生と豊かな国民の暮らしに寄与することが使命』であると考えらる。

動物看護師養成機関である専修学校はこの背景に基づいた教育を行い、社会のニーズに応じた人材を育成し、動物看護師の社会的地位の向上と高位平準化を目指したい。

目 次

【専門基礎分野】

1. 動物形態機能学	P 7 - 8
1 - 1) 概論	P 7
1 - 2) 比較解剖学	P 7
1 - 3) 血液学	P 7
1 - 4) 免疫学	P 8
1 - 5) 形態機能	P 8
2. 動物病理学	P 8
2 - 1) 病態生理概論	P 8
3. 動物疾病看護学	P 8 - 9
3 - 1) 概論	P 8
3 - 2) 内科疾患と看護	P 9
3 - 3) 外科疾患と看護	P 9
3 - 4) 皮膚疾患と看護	P 9
3 - 5) 眼科疾患と看護	P 9
3 - 6) 歯科疾患と看護	P 9
4. 動物薬理学	P 10
4 - 1) 薬理学	P 10
4 - 2) 薬物学	P 10
5. 動物感染症学	P 10 - 11
5 - 1) 総論	P 10
5 - 2) 内部寄生虫	P 10
5 - 3) 外部寄生虫	P 11
5 - 4) 微生物	P 11
6. 病原体・衛生管理	P 11
6 - 1) 概論	P 11
6 - 2) ワクチン	P 11
7. 動物健康管理	P 11 - 12

7-1)	飼育管理、日常ケア	P 11-12
8.	動物栄養学	P 12
8-1)	栄養素	P 12
8-2)	特別療法食	P 12
8-3)	ペットフード市場	P 12
9.	動物医療関連法規	P 13-14
9-1)	獣医師法	P 13
9-2)	狂犬病予防法	P 13
9-3)	動物愛護及び管理に関する法律	P 13
9-4)	鳥獣保護法	P 13
9-5)	薬物関連法規	P 13
9-6)	家畜伝染病予防法	P 13-14
9-7)	その他動物関連法規	P 14
9-8)	その他法規	P 14
10.	公衆衛生学	P 14-15
10-1)	概論	P 14
10-2)	人獣共通感染症	P 14
10-3)	滅菌・消毒	P 14
10-4)	動物防疫学	P 15
11.	動物繁殖学	P 15
11-1)	概論	P 15
11-2)	分娩・新生子	P 15
11-3)	遺伝学	P 15
12.	動物人間関係学	P 16
12-1)	HAB、AAA、AAT、AAE	P 16
13.	動物行動学	P 16-17
13-1)	概論	P 16
13-2)	犬学・猫学	P 16
13-3)	行動の意義と機構	P 16
13-4)	しつけ・トレーニング	P 17
13-5)	問題行動	P 17

14.	動物福祉論	P 17
14-1)	獣医療倫理・動物看護倫理	P 17
14-2)	動物福祉学	P 17
15.	飼養管理学	P 18-19
15-1)	エキゾチックアニマル (ウサギ・小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットの飼養)	P 18
15-2)	実験動物	P 18
15-3)	産業動物	P 18
15-4)	野生動物	P 18
15-5)	展示動物	P 18-19

【専門分野】

16.	動物看護学	P 20
16-1)	看護学概論	P 20
16-2)	動物の看護	P 20
16-3)	終末期患者動物の看護	P 20
17.	臨床動物看護学	P 20-21
17-1)	概論	P 21
17-2)	内科疾患の看護	P 21
17-3)	外科疾患の看護	P 21
17-4)	皮膚疾患の看護	P 21
17-5)	眼科疾患の看護	P 21
17-6)	歯科疾患の看護	P 21
18.	動物入院管理	P 21-22
18-1)	看護ケア、看護計画	P 21
18-2)	看護記録	P 22
18-3)	治療、処置別による看護	P 22
19.	幼齢動物・老齢動物管理	P 22
19-1)	哺育	P 22
19-2)	在宅・訪問管理	P 22
20.	動物臨床検査学	P 23
20-1)	検体検査	P 23

20-2) 生体検査	P 23
21. 救急救命対応	P 23-24
21-1) エマージェンシーとは	P 23
21-2) 救急救命疾患	P 23-24
22. クライアントエデュケーション	P 24
22-1) 疾病予防、避妊去勢、健康管理、衛生管理指導	P 24
23. 院内コミュニケーション	P 24-25
23-1) 受付、クライアントコミュニケーション	P 24
23-2) スタッフコミュニケーション	P 24-25

【専門分野 実習】

24. 動物飼育実習 I	P 26
24-1) コンパニオンアニマルの適切な飼育法	P 26
24-2) ドッグトレーニング	P 26
25. 動物飼育実習 II	P 26-27
25-1) 動物飼育に関する技術と実践の応用	P 26-27
26. 動物看護実習 I	P 27-28
26-1) 診療補助 (保定、バイタルチェック)	P 27
26-2) 輸液管理	P 27
26-3) シリンジの扱い	P 27
26-4) 衛生管理・入院管理	P 27
26-5) 調剤	P 28
26-6) グルーミング	P 28
27. 動物看護実習 II	P 28
27-1) 看護技術の実践と応用	P 28
28. 動物臨床検査学実習 I	P 29-31
28-1) 検体処理	P 29
28-2) 顕微鏡	P 29
28-3) 血液検査	P 29

28-4)	尿検査	P 29
28-5)	糞便検査	P 30
28-6)	細胞診	P 30
28-7)	微生物学的検査	P 30
28-8)	レントゲン	P 30
28-9)	超音波	P 30-31
28-10)	心電図	P 31
29.	動物臨床検査学実習Ⅱ	P 31
29-1)	検査技術の実践と応用	P 31
30.	外科動物看護実習Ⅰ	P 31-32
30-1)	手術関連業務	P 31-32
30-2)	術前術後の看護	P 32
30-3)	麻酔・鎮痛	P 32
30-4)	麻酔モニタリング	P 32
31.	外科動物看護実習Ⅱ	P 32-33
31-1)	外科に関する技術の実践と応用	P 33
32.	総合臨床実習	P 33
32-1)	動物病院実習	P 33

【専門基礎分野】

目的：体の構造と機能を知り疾病の成り立ちと回復の促進に寄与するため、動物医療に必要な専門知識を学び動物看護に活かす。また、人と動物が調和して暮らせるよう関連法規や健康管理と維持に必要な知識を習得した人材育成を目指す。

1. 動物形態機能学

目標：主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。

1-1) 概論

◇学習目標：生体の成り立ち、遺伝様式、細胞、体液、尿の生成を理解する

◆到達目標：

- ①動物の体を構成する細胞（染色体）とホメオスタシスを理解できる
- ②体液の区分（細胞外液・細胞内液）を理解できる
- ③尿の生成を理解できる
- ④運動系（骨格と筋肉）の仕組みを理解できる

1-2) 比較解剖学

◇学習目標：犬猫とそれ以外の動物の体の構造の違いを理解する

◆到達目標：

- ①犬猫とウサギの主な構造の違いを理解できる
- ②犬猫と鳥類の主な構造の違いを理解できる

1-3) 血液学

◇学習目標：血液の成分と働きを理解する

◆到達目標：

- ①造血と血球の分化を理解できる
- ②血液成分の違いとその働きを理解できる

1-4) 免疫学

◇学習目標：免疫系の基本的な仕組みを理解する

◆到達目標：

- ①免疫系器官とその働きを理解できる
- ②先天性免疫（自然免疫）と後天性免疫（適応免疫）を理解できる
- ③動物種による免疫の特性を理解できる

1－5）形態機能学

◇学習目標：動物の各臓器・器官（皮膚、筋・骨格、脳と神経、感覚器、循環器、呼吸器、消化器、内分泌とホルモン、生殖器、歯）の位置関係と関連性を理解し、解剖学用語を習得する

◆到達目標：

- ①動物の各臓器、器官の名称を習得する
- ②動物の各臓器、器官の働きを理解できる
- ③動物の各臓器、器官の位置関係と関連性を理解できる

2. 動物病理学

目標：発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する

2－1）病理学概論

◇学習目標：細胞の損傷、基本病変、免疫異常、浮腫、腫瘍について理解する

◆到達目標：

- ①細胞の損傷及び老化を理解できる
- ②基本的な病変（循環障害、退行性変化、炎症、進行性変化）のメカニズムを理解できる
- ③免疫異常のメカニズムを理解できる
- ④腫瘍の発生と分類を理解できる

3. 動物疾病看護学

目標：主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。

3－1）概論

◇学習目標：犬猫の身体検査及びバイタルサインの正常と異常の違いを理解する

◆到達目標：

- ①身体検査の項目とそれぞれの評価法を理解する
- ②バイタルサインの項目を理解できる
- ③バイタルサインの正常と異常の見分け方を理解できる

3-2) 内科疾患と看護

◇学習目標：犬猫の主な内科的疾患について疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解する

◆到達目標：

- ①内科的疾患の機序と症状を理解できる
- ②内科的疾患に必要な検査法、治療法を理解できる

3-3) 外科疾患と看護

◇学習目標：犬猫の主な外科的疾患について疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解する

◆到達目標：

- ①外科的疾患の機序と症状を理解できる
- ②外科的疾患に必要な検査法、治療法を理解できる

3-4) 皮膚疾患と看護

◇学習目標：犬猫の主な皮膚疾患について疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解する

◆到達目標：

- ①皮膚疾患の機序と分類を理解できる
- ②皮膚疾患に必要な検査法、治療法を理解できる

3-5) 眼科疾患と看護

◇学習目標：犬猫の主な眼科疾患について疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解する

◆到達目標：

- ①眼科疾患の機序と症状を理解できる
- ②眼科疾患に必要な検査法、治療法を理解できる

3-6) 歯科疾患と看護

◇学習目標：犬猫の主な歯科疾患について疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解する

◆到達目標：

- ①歯科疾患の機序と症状を理解できる
- ②歯科疾患に必要な検査法、治療法を理解できる

4. 動物薬理学

目標：薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り扱えることを目指す。

4-1) 薬理学

◇学習目標：薬理作用と薬物代謝の仕組み及び薬の有害作用、中毒を理解する

◆到達目標：

- ①薬が作用を現す基本的な仕組みを理解できる
- ②薬の代謝、排泄の仕組みを理解できる
- ③薬の有害作用(副作用)、中毒の基本を理解できる
- ④プラセボ効果

4-2) 薬物学

◇学習目標：獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解する

◆到達目標：

- ①主な抗生剤、抗菌剤について理解できる
- ②主な抗炎症剤について理解できる
- ③循環器系、呼吸器系の薬剤及び利尿薬について理解できる
- ④神経系、麻酔薬の薬剤について理解できる
- ⑤消化器系の薬剤について理解できる
- ⑥ホルモンの薬剤について理解できる

5. 動物感染症学

目標：主に犬猫に感染する内部寄生虫、外部寄生虫及び微生物について理解し、予防と看護に活かす。

5-1) 総論

◇学習目標：寄生現象及び宿主との関連性を理解できる

◆到達目標：

- ①寄生虫とは何かが理解できる
- ②宿主とは何かが理解できる

5-2) 内部寄生虫

◇学習目標：主に犬猫に寄生する内部寄生虫について分類と予防法を理解する

◆到達目標：

- ①犬猫に寄生する主な内部寄生虫の分類、形態、生活環の違いを理解できる
- ②犬猫に寄生する主な内部寄生虫の病害発生の機序と予防法を理解できる

5-3) 外部寄生虫

◇学習目標：主に犬猫に寄生する外部寄生虫について分類と予防法を理解する

◆到達目標：

- ①犬猫に寄生する主な外部寄生虫の分類、形態、生活環の違いを理解できる
- ②犬猫に寄生する主な外部寄生虫の病害発生の機序と予防法を理解できる

5-4) 微生物

◇学習目標：主に犬猫に感染する微生物について分類と予防法を理解する

◆到達目標：

- ①犬猫に感染する主な原虫の感染経路と病害発生の機序と予防法を理解できる
- ②犬猫に感染する主な真菌の感染経路と病害発生の機序と予防法を理解できる
- ③犬猫に感染する主な細菌の感染経路と病害発生の機序と予防法を理解できる

6. 動物病原体・衛生管理

目標：病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。

6-1) 概論

◇学習目標：主に犬猫に関連する病原体について治療法と防御法を理解する

◆到達目標：

- ①犬猫に感染する主なウィルスの種類と特徴を理解できる
- ②犬猫に感染する主なウィルスの感染経路と病害発生の機序を理解できる

6-2) ワクチン

◇学習目標：獣医療現場で使用される主なワクチンについて特徴と使用方法を理解する

◆到達目標：

- ①犬猫の主なワクチンの種類と特徴を理解できる
- ②犬猫のワクチン接種についてワクチネーションプログラムを理解できる

7. 動物健康管理

目標：健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導ができる。

7-1) 飼育管理・日常ケア

◇学習目標：健全な動物に対する必要なケアの意義と方法を理解する

◆到達目標：

- ①被毛の手入れ、シャンプーについて理解できる
- ②爪切り、耳掃除について理解できる
- ③肛門囊について理解できる
- ④犬種猫種の活動性の違いによる適切な飼育環境作りを理解できる
- ⑤食べてはいけないものや事故防止に工夫した飼育管理を理解できる

8. 動物栄養学

目標：基礎栄養素及び主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的知識と特別療法食の特性など個体に合った適切な食事管理についての知識を身につける。また、ペットフードの市場について考察する。

8-1) 栄養学

◇学習目標：基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する

◆到達目標：

- ①基礎栄養素を理解できる
- ②犬猫の必要栄養素の違いを理解できる
- ③ペットフードの標記を理解できる
- ④ライフステージの違いを理解できる
- ⑤BCS評価及びカロリー計算ができる
- ⑥フードのタイプ及び給仕回数、給与方法を理解できる

8-2) 特別療法食

◇学習目標：特別療法食と疾患別による栄養特性を理解する

◆到達目標：

- ①特別療法食の標記と取り扱いを理解できる
- ②疾患別による栄養特性を理解できる
- ③疾患別による適切なフードのタイプ及び給仕回数、給仕方法を理解できる

8-3) ペットフード市場

◇学習目標：ペットフードの販売と市場について考察する

◆到達目標：

- ①嗜好性と受容性を理解できる
- ②ペットフードの適切な取り扱いを理解できる

9. 動物医療関連法規

目標：主に獣医遼現場及び動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献し専門職として遵守の精神を養う。また、社会人として知っておくべき法規について認識する。

9-1) 獣医師法、獣医療法

◇学習目標：法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける

◆到達目標：

- ①法における獣医師と動物看護師の職域の違いを理解できる
- ②適切な診療に従事できるよう責務と規制事項を理解できる

9-2) 狂犬病予防法

◇学習目標：法の理念と目的を理解し、公衆衛生に寄与する

◆到達目標：

- ①法における責務と規制事項を理解できる
- ②予防と登録の必要性を飼主指導できる

9-3) 動物愛護及び管理に関する法律

◇学習目標：法の理念、目的を理解し、人と動物のより良い共生に寄与する

◆到達目標：

- ①法における責務と規制事項を理解できる
- ②動物福祉と人との共生の観点から、適切な飼育法を飼主指導できる

9-4) 鳥獣保護法

◇学習目標：法の理念と目的を学び、野生鳥獣の保護と適正狩猟について理解する

◆到達目標：

- ①法における責務と規制事項を理解できる
- ②野生動物の在りかたと動物福祉の観点から人との共生を理解できる

9-5) 薬物関連法規

◇学習目標：薬事法の理念と目的を学び、薬剤や医療機器の適正な取り扱い及び保管方法に理解を深める

◆到達目標：

- ①麻薬及び向精神薬、毒劇物について適正な取り扱いと保管方法を理解できる
- ②主な医療機器について適正な取り扱いと保管方法を理解できる

9-6) 家畜伝染予防法

◇学習目標：法の理念と目的を学び、家畜防疫についての理解を深める

◆到達目標：

- ①法における責務と規制事項を理解できる
- ②人と動物の共通感染症防止及び予防の必要性を飼主指導できる

9-7) その他動物関連法規

◇学習目標：法の理念と目的を学び社会と動物の関わりを理解する

◆到達目標：

- ①身体障害者補助犬法の責務と倫理的対応を理解する

9-8) その他関連法規

◇学習目標：社会人として知っておくべき法規について理解する

◆到達目標：

- ①個人情報保護法について理念と目的を理解する
- ②労働基準法、労働安全衛生法など理念と目的を理解する
- ③健康保険法や育児介護休業等福祉に関する法律について理念と目的を理解する

10. 公衆衛生学

目標：公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。

10-1) 概論

◇学習目標：公衆衛生について基本的な理念を理解する

◆到達目標：公衆衛生の目的と活動について理解できる

10-2) 人獣共通感染症

◇学習目標：主な人獣共通感染症の種類と感染経路、予防法を理解する

◆到達目標：

- ①主な飼育動物由来の人獣共通感染症の種類と病害発生の機序を理解できる
- ②主な飼育動物由来の人獣共通感染症の予防法を理解できる

10-3) 滅菌・消毒

◇学習目標：滅菌と消毒の違いとそれぞれの方法を理解する

◆到達目標：

- ①滅菌の目的と方法、運用を理解できる
- ②消毒の目的と方法、運用を理解できる

10-4) 動物防疫学

◇学習目標：国内外に問わず、動物の輸送時や受け入れの際に必要な知識を身につける

◆到達目標：

- ①動物検疫の目的と方法について理解できる
- ②国外輸送や新規輸入受け入れ時の注意点を理解できる
- ③集団感染を防ぐ目的と方法を理解できる

1.1. 動物繁殖学

目標：主に犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身につけ助産と性別疾病予防について飼主指導に活かす。また犬猫以外の動物の繁殖生理の特徴を知る。

1.1-1) 概論

◇学習目標：主に犬猫の生殖器の構造と発生を理解する

◆到達目標：

- ①雌雄の生殖器の構造と性分化の過程を理解できる
- ②犬の発情周期と性行動を理解できる
- ③猫の発情周期と性行動を理解できる
- ④犬猫以外の主な動物の生殖器の構造と性行動を理解できる

1.1-2) 分娩・新生児

◇学習目標：受精と妊娠及び妊娠診断、正常分娩と異常分娩、産褥について理解する

◆到達目標：

- ①受精と着床について人工授精を含め理解できる
- ②妊娠診断方法と妊娠動物の看護について理解できる
- ③分娩の前兆と生理的変化を理解できる
- ④正常分娩と異常分娩の違いを理解できる
- ⑤帝王切開時の助産法を理解できる
- ⑥産褥期の母体管理と新生児の管理を理解できる

1.1-3) 遺伝学

◇学習目標：繁殖に伴う遺伝的要因を理解する

◆到達目標：

- ①繁殖に伴う優性遺伝と劣性遺伝を理解できる
- ②近親交配とブリーディングについて理解できる
- ③遺伝性疾患を理解できる

1 2. 人間動物関係学

目標：人と動物の絆（HAB）の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し、人と動物の共生に寄与する。

1 2-1) AAA、AAT、AAE

◇学習目標：HABによる人間と動物にもたらす影響とその目的を理解する

◆到達目標：

- ①HABがもたらす人と動物への影響を理解できる
- ②動物介在活動（AAA）の理念と目的を理解できる
- ③動物介在療法（AAT）の理念と目的を理解できる
- ④動物介在教育（AAE）の理念と目的を理解できる

1 3. 動物行動学

目標：主に犬猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、看護と飼主指導に活かす。

1 3-1) 概論

◇学習目標：生物学上の観点から犬と猫の発生起源と歴史を理解する

◆到達目標：

- ①犬の発生起源と生態及びその歴史を理解できる
- ②猫の発生起源と生態及びその歴史を理解できる

1 3-2) 犬学・猫学

◇学習目標：犬種、猫種による違いとその目的を理解する

◆到達目標：

- ①犬種による特徴とその目的を理解できる
- ②猫種による特徴とその目的を理解できる

1 3-3) 行動の意義と機序

◇学習目標：犬猫において基本的な行動の意義または機序を理解する

◆到達目標：

- ①犬猫における行動の発達ステージと発達過程を理解できる
- ②犬猫における生得的行動、習得的行動について理解できる
- ③犬猫における個体行動及び社会行動を理解できる
- ④犬猫におけるコミュニケーション行動及びボディランゲージを理解できる
- ⑤犬猫における性行動について理解できる

13-4) しつけ・トレーニング

◇学習目標：犬猫の基本的なしつけ法を理解し、適正飼育と人と動物の共生に寄与する

◆到達目標：

- ①学習理論と馴化の機序を理解できる
- ②犬猫の適切なハンドリングの必要性を理解できる
- ③犬猫の排泄のしつけの機序を理解できる
- ④犬猫のクレートトレーニングの機序を理解できる
- ⑤犬の基本的な服従訓練の必要性を理解できる
- ⑥パピークラスの必要性を理解できる

13-5) 問題行動

◇学習目標：犬猫におこる主な問題行動について理解する

◆到達目標：

- ①排泄問題の発現機序を理解できる
- ②攻撃性の発現機序を理解できる
- ③分離不安の発現機序を理解できる

14. 動物福祉論

目標：生命倫理を基本に人と動物が共生するために必要な倫理学の理念を身につける。

14-1) 獣医療倫理・動物看護倫理

◇学習目標：動物医療現場で直面する生命倫理について理解を深める

◆到達目標：

- ①痛み、苦痛の軽減及び生活の質（QOL）を考慮した看護の必要性を理解できる
- ②インフォームドコンセントの必要性を理解できる
- ③安楽死について理解できる

14-2) 動物福祉学

◇学習目標：動物福祉を考慮するための基本的理念を理解する

◆到達目標：

- ①ファイブフリーダムを理解できる
- ②伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物など状況に応じた動物福祉の概念を理解できる

15. 飼養管理学

目標：実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点から人と動物の共生に寄与する。

また伴侶動物となり得るウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットについて生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解し、看護と飼主指導に活かす。

15-1) エキゾチックアニマル（ウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットの飼養）

◇学習目標：犬猫と比較し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する

◆到達目標：

- ①ウサギの生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解できる
- ②小鳥の生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解できる
- ③ハムスターの生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解できる
- ④モルモットの生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解できる
- ⑤フェレットの生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解できる

15-2) 実験動物

◇学習目標：実験動物の社会的役割と管理について理解する

◆到達目標：

- ①実験動物の社会的役割と種類を理解できる
- ②実験動物関連法規を理解できる
- ③実験動物の倫理的問題点と3Rを理解できる
- ④適切な実験のための飼育環境について理解できる
- ⑤適切な実験のための食事管理について理解できる

15-3) 産業動物

◇学習目標：産業動物の管理について入手、飼育法及び食品生産の仕組みを理解する

◆到達目標：

- ①産業動物の社会的役割と種類を理解できる
- ②産業動物関連法規を理解できる
- ③安全性の高い食品生産の仕組みを理解できる
- ④生産性向上のための飼育環境について理解できる
- ⑤生産性向上のための食事管理について理解できる
- ⑥産業動物における主な疾患と予防法を理解できる

15-4) 野生動物

◇学習目標：野生動物における生態系と環境保全及び外来生物について理解する

◆到達目標：

- ①生物学上の生態系及び形態学的な差異を理解できる
- ②野生生物の生理メカニズムを理解できる
- ③野生動物関連法規（CITES、ラムサール条約）を理解できる
- ④絶滅危惧とレッドデータ、保護活動について理解できる
- ⑤外来生物による影響について理解できる

15-5) 展示動物

◇学習目標：展示動物の管理について入手、飼育法を理解する

◆到達目標：

- ①動物園水族館のなどの社会的役割と種類を理解できる
- ②展示動物関連法規を理解できる
- ②適正な飼育環境と展示法について理解できる
- ③適正な飼育のための食事管理について理解できる
- ④適正な飼育のための主な疾患と予防法を理解できる

【専門分野】

目的：基礎分野・専門基礎分野で学んだことと応用を実践し、問題解決能力や看護実践能力を身につけた人材を育成する。

16. 動物看護学

目標：チーム医療に基づいた専門職としての看護倫理、業務指針から、動物及び飼主に寄り添った動物看護実践能力と問題解決能力を身につける。

16-1) 看護学概論

◇学習目標：動物看護倫理、業務指針を理解し情意面を養う

◆到達目標：

- ①動物看護倫理を理解できる
- ②動物看護における業務指針を理解できる

16-2) 動物の看護

◇学習目標：獣医療専門用語、POMRの構成、看護過程、問題思考過程を理解する

◆到達目標：

- ①主な獣医療専門用語が理解できる
- ②POMRの理念及び構成を理解できる
- ③看護過程の5段階を理解できる
- ④問題思考過程の5段階を理解できる

16-3) 終末期患者動物の看護

◇学習目標：QOLを基本に患者動物と飼主に寄り添った看護を考察する

◆到達目標：

- ①グリーフケアを理解できる
- ②ペットロスを理解できる
- ③死後の取り扱いを理解できる

17. 臨床動物看護学

目標：各疾病による身体的・精神的状況から適切な看護法を考察する。

17-1) 概論

◇学習目標：各疾病の特徴と急性、慢性などの経緯、個体情報の分析から看護に活かす

◆到達目標：個体観察や飼主情報など様々な観点からの情報収集の必要性を理解できる

17-2) 内科疾患の看護

◇学習目標：主な内科疾患の回復に必要な事項を理解する

◆到達目標：個体に応じた適切な看護法を理解できる

17-3) 外科疾患の看護

◇学習目標：主な外科疾患の回復に必要な事項を理解する

◆到達目標：個体に応じた適切な看護法を理解できる

17-4) 皮膚疾患の看護

◇学習目標：主な皮膚疾患の回復に必要な事項を理解する

◆到達目標：個体に応じた適切な看護法を理解できる

17-5) 眼科疾患の看護

◇学習目標：主な眼科疾患の回復に必要な事項を理解する

◆到達目標：個体に応じた適切な看護法を理解できる

17-6) 歯科疾患の看護

◇学習目標：主な歯科疾患の回復に必要な事項を理解する

◆到達目標：個体に応じた適切な看護法を理解できる

18. 動物入院管理

目標：個体別及び疾患別に応じた看護力を身につけ飼主指導に活かす

18-1) 看護ケア、看護計画

◇学習目標：論理的思考に基づいた看護力を身につけ看護過程に活かす

◆到達目標：

- ①看護目標が理解できる
- ②看護計画及びケア計画が理解できる
- ③指導計画が理解できる
- ④看護記録が理解できる

18-2) 看護記録

◇学習目標：看護過程と看護記録を理解する

◆到達目標：

- ①SOAPに基づく看護記録法を理解できる
- ②看護評価を理解できる

18-3) 治療、処置別による看護

◇学習目標：疾病と症状による特異的な処置、入院管理を理解する

◆到達目標：

- ①伝染性疾患の患者動物の取り扱いを理解できる
- ②ICU患者動物の取り扱いを理解できる
- ③疼痛を生じる患者動物の取り扱いを理解できる

19. 幼齢動物・老齢動物管理

目標：主に犬猫の新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かす。また老齢動物の管理、介護を理解し飼主に寄り添った在宅看護に活かす。

19-1) 哺育

◇学習目標：人工哺育の見極めとその方法及び幼齢動物の管理法を理解する

◆到達目標：

- ①初乳の必要性を理解できる
- ②人工哺乳の方法を理解できる
- ③適切な飼育環境について理解できる
- ④排泄の補助について理解できる
- ⑤幼齢動物の成長過程及びバイタルサインを理解できる
- ⑥幼齢動物の主な疾患と予防を理解できる

19-2) 在宅、訪問管理

◇学習目標：老齢動物の管理法、介護法を理解し飼主指導に活かす

◆到達目標：

- ①老齢期の身体的変化を理解できる
- ②適切な飼育環境について理解できる
- ③慢性疾患、褥瘡及び不可逆的な症状について理解できる
- ④認知障害の特徴を理解できる
- ⑤補助、介護の必要性和介護グッズについて理解できる
- ⑥老齢動物の主な疾患と予防を理解できる

20. 動物臨床検査学

目標：検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。

20-1) 検体検査

◇学習目標：検体検査の主な種類と検査の意義を理解する

◆到達目標：

- ①糞便検査の意義を理解できる
- ②尿検査の意義を理解できる
- ③血液検査の意義を理解できる
- ④その他（細胞）検査の意義を理解できる

20-2) 生体検査

◇学習目標：生体検査の主な種類と意義を理解し、生体に及ぼす影響を理解できる

◆到達目標：

- ②エックス線の生物作用と防護について理解できる
- ②エックス線の発生機序を理解できる
- ③レントゲン撮影で用いられる単位について理解できる
- ④超音波の基本原理について理解できる
- ⑤心電図の基本原理について理解できる
- ⑥内視鏡の基本原理について理解できる
- ⑦CT・MRIの基本原理について理解できる

21. 救急救命対応

目標：エマージェンシーの見極めとトリアージを理解し救急救命に活かす。

21-1) エマージェンシー

◇学習目標：エマージェンシー時のバイタルサイン及び救命法（CPR）を理解する

◆到達目標：

- ①エマージェンシー時のバイタルサインを理解できる
- ②トリアージの判定基準と分類を理解できる
- ③CPR法を理解できる

21-2) 救急救命疾患

◇学習目標：不慮の事故などによる緊急に対処が必要な疾患について理解する

◆到達目標：

- ①中毒症状について理解できる
- ②誤飲誤食について理解できる

- ③外傷について理解できる
- ④熱中症について理解できる
- ⑤溺水について理解できる
- ⑥感電について理解できる

2.2. クライアントエデュケーション

目標：人と動物のより良い共生を目指し、専門職の観点から飼主指導に活かす。

2.2-1) 疾病予防、健康管理、衛生管理指導

◇学習目標：今まで学習した専門知識を活用し啓蒙と個別に応じた飼主指導に活かす

◆到達目標：

- ①疾病予防について、不妊手術、予防薬、ワクチン及び定期健診の必要性を説明できる
- ②しつけ、日常の健康チェック、歯科疾患予防の必要性を説明できる
- ③グルーミング、人獣共通感染症の予防についてその必要性を説明できる

2.3. 院内コミュニケーション

目標：動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を身につける。

2.3-1) 受付、クライアントコミュニケーション

◇学習目標：動物診療現場における受付で発生する飼主対応、接遇を身につける

◆到達目標：

- ①初診及び再診時など状況に応じた飼主対応ができる
- ②社会人として確実な電話対応及び適切な取次ができる
- ③精算、会計業務が正確にできる
- ④在庫管理や備品管理、顧客管理ができる

2.3-2) スタッフコミュニケーション

◇学習目標：動物診療現場におけるクライアント、スタッフとの状況に応じたコミュニケーションを身につける

◆到達目標：

- ①状況に応じた身だしなみができる
- ②状況に応じた表情、行動（態度）ができる
- ③状況に応じた挨拶、会話ができる
- ④状況に応じて報告・連絡・相談が確実にできる

⑤チームワークに寄与できる

【専門分野 実習】

目的：基礎分野・専門基礎分野で学んだことと応用を実践し、問題解決能力や看護実践能力を身につけた人材を育成する。

24. 動物飼育実習Ⅰ

目標：実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。

また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。

24-1) コンパニオンアニマルの適切な飼育法

◇学習目標：個体別の生活様式から正常と異常を見極め、責任感のある動物飼育を身につける

◆到達目標：

- ①排泄物の正常と異常を知る
- ②動物種、個体別による歩様、食事様式を知る
- ③動物種、性別による基本的動作、特徴を知る
- ④ケージの衛生管理、食事の管理ができる
- ⑤個体別による適切なハンドリングができる

24-2) ドッグトレーニング

◇学習目標：犬の基本的な服従訓練法を理解できる

◆到達目標：

- ①アイコンタクト、オスワリ、マテ、フセなどの基本的な訓練法を理解できる
- ②犬猫のご褒美について理解できる
- ③しつけグッズの種類と特徴を理解できる

25. 動物飼育実習Ⅱ

目標：動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。

25-1) 動物飼育に関する技術の実践と応用

◇学習目標：適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。
また正常と異常を鑑別し看護評価を行う

◆到達目標：

- ①手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに手技ができる
- ②正常と異常を鑑別及び看護評価し獣医師に的確に報告できる
- ③動物の健康維持、精神衛生維持に努める

6. 動物看護実習 I

目標：基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的
手技を身につける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能
力を身につける。

26-1) 診療補助（保定、バイタルチェック）

◇学習目標：犬猫の扱いを知り、基本的な保定法と身体検査法を身につける

◆到達目標：

- ①犬猫の基本的な保定法の違いを知り処置と個体に合った保定ができる
- ②バイタルチェックと身体検査が適切にできる
- ③バイタルチェックを含む身体検査時の正常と異常の違いを知り報告できる

26-2) 輸液管理

◇学習目標：輸液の適切な接続及び操作法を身につける

◆到達目標：

- ①正しく無菌的に輸液ラインを接続できる
- ②輸液スピードを設定できる
- ③輸液中の動物観察と投与量の確認ができる

26-3) シリンジの扱い

◇学習目標：シリンジの正しい扱いを身につけ、注射法の目的と違いを知る

◆到達目標：

- ①正しく無菌的にシリンジを扱い定められた薬液量を準備できる
- ②注射法に応じたシリンジの準備ができる

26-4) 衛生管理・入院管理

◇学習目標：汚染を防ぐ入院動物の扱い方及び入院舎の清掃ができる

◆到達目標：

- ①感染源を理解し、不潔と清潔の区別を徹底できる
- ②安全な入院環境を保つことができる

26-5) 調剤

◇学習目標：処方箋に従った薬剤の準備及び適切な薬剤の取り扱いを身につける

◆到達目標：

- ①処方箋と調剤用語を理解できる
- ②薬剤の形状、標記を理解できる
- ③衛生的で安全な薬剤の取り扱いができる
- ④正確に薬用量の件、調剤、分包ができる
- ⑤薬袋の記入ができる
- ⑥薬剤の使用方法的説明ができる

26-6) グルーミング

◇学習目標：個体に応じたグルーミングが安全にできる

◆到達目標：

- ①シャンプー、リンスの種類を理解できる
- ②シャンプー及び薬浴が適切にできる
- ③ブラッシング、コーミングが適切にできる
- ④ドライイングが適切にできる
- ⑤爪切りが適切にできる
- ⑥耳掃除が適切にできる
- ⑦肛門嚢絞りが適切にできる
- ⑧バリカンを使った趾裏のクリッピングができる

27. 動物看護実習Ⅱ

目標：動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。

27-1) 看護技術の実践と応用

◇学習目標：診療現場に必要な観察力及び基本的手技を身につける。また正常と異常を鑑別し看護評価を行う

◆到達目標：

- ①手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに手技ができる
- ②正常と異常を鑑別及び評価し獣医師に的確に報告できる

28. 動物臨床検査学実習 I

目標：基礎で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。

28-1) 検体処理

◇学習目標：診療現場で主に用いられる検体の適切な取り扱いを身につける

◆到達目標：

- ①血液採取法と各成分に応じた保存法を理解できる
- ②血液抗凝固剤の種類と特徴を理解できる
- ③尿採取法と保存方法を理解できる
- ④採便法と保存方法を理解できる
- ⑤貯留液処理における採取法と保存法を理解できる

28-2) 顕微鏡

◇学習目標：適切な顕微鏡の操作法及び取り扱いを身につける

◆到達目標：

- ①顕微鏡の各部位と鏡倍率、鏡条件の仕組みを理解できる
- ②正しい操作と基本的なメンテナンス法が理解できる

28-3) 血液検査

◇学習目標：CBC、生化学検査を基本に診療現場で主に行われる血液検査の意義を理解し適切な手技を身につける

◆到達目標：

- ①CBC検査の意義を理解し適切な手技ができる
- ②血液塗抹標本作製の意義と鑑別を理解できる
- ③生化学検査の意義を理解し適切な手技ができる
- ④輸血時のクロスマッチの意義が理解できる
- ⑤住血寄生虫の検査法の意義を理解し適切な手技ができる
- ⑥簡易キットを用いた免疫学的検査の意義を理解し適切な手技ができる
- ⑦凝固系検査の意義を理解し適切な手技ができる

28-4) 尿検査

◇学習目標：診療現場で主に行われる尿検査の意義を理解し適切な手技を身につける

◆到達目標：

- ①物理学的性状検査の意義を理解し適切な手技ができる
- ②化学的検査の意義を理解し適切な手技ができる
- ③顕微鏡学的検査の意義を理解し適切な手技ができる

28-5) 糞便検査

◇学習目標：診療現場で主に行われる糞便検査の意義を理解し適切な手技を身につける

◆到達目標：

- ①物理学的性状検査の意義を理解し適切な手技ができる
- ②顕微鏡学的検査の意義を理解し適切な手技ができる
- ③簡易キットを用いた免疫学的検査の意義を理解し適切な手技ができる

28-6) 細胞診

◇学習目標：診療現場で主に行われる細胞診の意義を理解し手技を身につける

◆到達目標：

- ①病理検査における検体の採取法を理解できる
- ②病理検査における検体の保存法を理解できる
- ③細胞診におけるスタンプスミア作製法を理解し適切な手技ができる

28-7) 微生物学的検査

◇学習目標：診療現場で主に行われる微生物学的検査の意義を理解し適切な手技を身につける

◆到達目標：

- ①細菌及び真菌培養の意義と適切な手技ができる
- ②細菌鑑別のための標本作製法を理解し適切な手技ができる
- ③基本的な菌の同定が理解できる

28-8) レントゲン

◇学習目標：レントゲン装置の操作法と撮影時のポジショニング及び現像法を理解し適切な手技を身につける

◆到達目標：

- ①レントゲン撮影条件、グリッドの有無を理解が設定できる
- ②適切な撮影のための関連器具について理解できる
- ③カセット及びフィルムの適切な取り扱いと準備ができる
- ④撮影目的に合った動物のポジショニングができる
- ⑤適切に現像ができる
- ⑥フィルム及びデータの適切な管理ができる
- ⑦レントゲンフィルムの基本的な読影が理解できる
- ⑧レントゲン撮影に従事する者の各種報告の義務について理解できる

28-9) 超音波

◇学習目標：超音波装置の操作法と検査時のポジショニング方法を身につける

◆到達目標：

- ①超音波検査時に必要な準備ができる
- ②超音波装置の適切な取り扱いと操作ができる
- ③検査目的に合った動物のポジショニングができる

28-10) 心電図

◇学習目標：心電図の原理を理解し、心電図装置の操作法と意義及び検査時のポジショニング方法を身につける

◆到達目標：

- ①心電図の原理を理解できる
- ②基本的な波形と検査意義を理解できる
- ③超音波検査時に必要な準備ができる
- ④心電図の適切な取り扱いと操作ができる
- ⑤動物のポジショニングができる

29. 動物臨床検査学実習Ⅱ

目標：動物臨床検査学実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。

29-1) 検査技術の実践と応用

◇学習目標：診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する基本的手技を身につける。

◆到達目標：

- ①手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに手技ができる
- ②検査の工程から結果までを鑑別及び評価し獣医師に的確に報告できる

30. 外科動物看護実習Ⅰ

目標：基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身につける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。

30-1) 手術関連業務

◇学習目標：外科手術に必要な術前準備と術後業務までその意義を理解し適切な取り扱いができる

◆到達目標：

- ①リネン類の種類とその用途目的を理解し適切な準備ができる
- ②手術器具の種類と目的を理解し適切な管理と準備ができる
- ③縫合糸の種類と特性、用途目的を理解する

④適切な滅菌作業と管理運用ができる

30-2) 術前術後の看護

◇学習目標：麻酔導入から覚醒までの身体変化を理解し適切な対応ができる。また術野の準備から手術助手業務までを身につける

◆到達目標：

- ①気管挿管の目的を理解し準備と補助ができる
- ②血管確保の目的を理解し準備と補助ができる
- ③輸液の目的を理解し準備と接続、輸液管理ができる
- ④術野の毛刈りと消毒ができる
- ⑤手洗い及び術着、手袋の着用が適切にできる
- ⑥滅菌、汚染の区別を理解し衛生的に行動できる
- ⑦術傷の保護ができる
- ⑧術後のバイタルチェックの報告と記録、状況に応じた動物管理ができる

30-3) 麻酔・鎮痛

◇学習目標：麻酔薬と鎮痛薬の関連法規とその使用目的を理解し正しい取り扱いができる

◆到達目標：

- ①ペインスケールを理解できる
- ②麻酔薬、鎮痛薬の関連法規に精通する
- ③麻酔薬、鎮痛薬の薬理効果を理解しバイタルチェックの報告ができる

30-4) 麻酔モニタリング

◇学習目標：手術時のモニター機器の意義を理解し適切な接続と正しい取り扱いができる

◆到達目標：

- ①麻酔器の仕組みを理解し適切に接続できる
- ②モニター機器の仕組みを理解し適切に装着接続できる
- ③モニター数値の理解及び異常の監視と報告ができる
- ④術中のバイタルチェックの監視報告と状況に応じた動物管理ができる
- ⑤麻酔機器を獣医師の指示に基づき操作できる
- ⑥補助呼吸及び人工呼吸器を獣医師の指示に基づき操作できる

31. 外科動物看護実習Ⅱ

目標：外科動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。

3 1 - 1) 外科に関する技術の実践と応用

◇学習目標：外科演習で学んだ診療現場に必要な周術期に関する基本的手技を身につける。また正常と異常を鑑別し看護評価を行う

◆到達目標：

- ①手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに手技ができる
- ②正常と異常を鑑別及び看護評価し獣医師と連携して看護ができる

3 2. 総合臨床実習

目標：診療現場での臨床経験からより実践的な看護と専門職としての意識を身につける

3 2 - 1) 動物病院実習

◇学習目標：修学した知識と技術、コミュニケーション能力を発揮し、先輩看護師に習う。また、実習先の評価をもとに学生生活に活かす。

◆到達目標：

- ①臨床症例を見ることで実践に役立つ知識と技術に活かす
- ②獣医療現場から専門職としての意識を学ぶ
- ③社会人及び新人スタッフとしての心構えを学ぶ

第一版 2012年10月

今後も**動物看護師養成モデルコアカリキュラム（専修学校）**の改定していくことが想定されますことを予めご了承ください。